

29P-am02

固形製剤の嚥下に影響を及ぼす因子の検討と臨床への応用

○笠師 久美子¹, 鄭 漢忠², 山田 武宏¹, 戸塚 靖則², 井関 健¹(¹北大病院薬,
²北大院歯)

【目的】カプセルや錠剤などの内服固形製剤は、咀嚼により碎かれ細分化する食物と違い、ほぼ丸のみの状態で送りこまれるため、服薬の際に飲みづらさを感じることも多い。その要因を解明し、服薬指導の指標とすることを目的に本研究を行った。

【方法】嚥下障害のない健康人に対して、固形製剤の嚥下に関与する因子として製剤の大きさ、比重、嚥下姿勢をあげ、口腔通過時間(OTT)と咽頭通過時間(PTT)をVF(videofluoroscopy)で測定した。Study1では大きさと比重を変えた4種類のカプセル製剤を用いた。同時に被験者の飲みやすさ(官能試験)を記入してもらい、通過時間との相関性を調査した。Study2は3姿勢(上向き、正面、下向き)を対象とした。有意差検定にはANOVAを用いた。

【結果】Study1(25名)の官能試験では小さい製剤が飲みやすく、比重との関係は明確にならなかった。通過時間についてOTTは小さい製剤の方が早く、PTTには変化がなかった。大きさについては官能試験とOTTの相関がみられたが、比重の差は明確にならなかった。Study2(19名)では、比重に関わらず下向きで嚥下した時のOTTが早い結果となった。

【考察】結果より、1. 口腔相が飲みやすさや通過時間に影響を与えている。2. 製剤の大きさによる飲みやすさや通過時間の変化は見られたが、比重の違いは明確にならなかった。3. 嚥下姿勢はやや下向きで補助動作を加えた方が飲みやすくOTTも早い。

【結論】固形製剤の服用には大きさのみならず姿勢も重要な因子と考えられ、特に口腔相に影響を与える薬剤では飲み方や姿勢の工夫が必要であると思われた。